

コラム

みやちゃん と一緒に体験記

Vol.63

願いは、ただそれだけのことなのに・・・

東京ではあちこちで桜が開花し、季節がポカポカ陽気を運んでくれたようです。

3月は年度末の忙しい時期ですが、“みやちゃん”こと薬剤師の宮原富士子さんが理事長をつとめるHAP主宰の「薬害と医療安全を学ぶ」講座（シリーズ）が、3月24日夜オンライン開催されました。不定期開催の本講座では、薬害当事者の声をきき、薬剤師としてどう対応していくべきかなどの学びを目的としているものです。

この日は、新型コロナワクチンによる健康被害当事者である木村瑞穂さん（新型コロナ枠新後遺症患者の会代表）が講演者として、被害の実情や患者の会の活動について話していただきました。

世界的規模で感染拡大した新型コロナ。日本では、2020年2月、横浜港に停泊したクルーズ船でコロナ感染者が発見され、それから瞬く間に感染拡大していきました。もちろん、現在もウイルスの脅威はありますが、当時は未知のウイルスゆえに対処法がわからず、うがい、手洗い、不要不急の外出をさけるなどの基本的なことをすることしかできませんでした。

そんな中、解決の糸口となるコロナワクチンが開発され、誰もが少しでも早くワクチン接種ができるように予約を急ぎ、今おもうと滑稽なワクチン騒動でした。

先日、断捨離をしていたら、新型コロナワクチン接種記録がみつかりました。私の場合、2021年に2回、2022年に3回、2023年に1回、合計6回接種していました。接種機関は内科、総合病院、眼科。幸いにも発熱もたいしたことはありませんでした。原稿を書きながら自分でも懐かしく当時のことを思い出しました。

新型コロナワクチンは、国民の8割が接種しました。任意であるため2割の方々は接種を拒否されました。残念なことに、ワクチン接種による健康被害者が報告され、さらに死亡者も

でした。今回の講演者である木村さんは、2021年に接種し、すぐに自律神経症状などの健康被害がでて、5年が経過した現在も苦しみが続いています。この日は、後遺症に苦しむ患者の一人として「新型コロナワクチン後遺症患者の会」の代表として、副作用報告と救済制度の実情について詳しく話されました。

辛い症状を改善して欲しくて医療機関に足を運んでも、「不定愁訴」「精神的なもの」「更年期」といった言葉でかたづけられたり、別の医療機関につないでくれなかったり。

同じワクチンなのに、なぜ被害をうけた方々にはこれほどの後遺症があるのでしょうか？薬と同じくワクチンにも「副作用はあるものだ……」という論理はわかりますが、少数の被害者は気の毒だけど運命だと諦めるしかないのでしょうか？

ワクチンを接種しない選択をする人は確かに存在しましたが、接種時は、世の中全体が「接種しないといけないもの」といった風潮があり、企業などに所属する方々は自己決定権がなかったのが事実です。国家規模のワクチン接種だったのですから、政府の責任は免れないことは言うまでもありません。

ワクチン接種開始から5年という月日が経過して健康被害者がでていのに、被害者を救済する治療研究がなされていないのは驚くばかりです。厚労省の救済制度についても、申請方法が難解で理解できない/医師や自治体も制度を詳しく知らない/申請書類作成にかかる費用が高いなど……やっとの思いで認定されても一定期間のみしか保証されないというのが実態といます。

被害者の方々の願いは、元の身体に戻りたい、なかったことにしないで欲しい……それだけです。


傷ついた身体で救済をもとめて活動を続ける木村さんの報告を、この日オンラインに参加した多くの医療従事者（半分以上が薬剤師）は、どう受け止めるべきでしょうか。パンデミック中、みやちゃんと仲間たちは地元住民をコロナから守るために精力的に活動していました。その一つに「新型コロナワクチンフォローアップシート」作成があり、私もいただき活用してワクチンを接種する医療機関に提出しました。さらに近所の方々にも配布しましたら喜んでいただいたものです。

「薬剤師さんにこんな風に聴いてもらえるとは思わなかった」。


国家と闘いつづける木村さんの驚きと嬉しさの混じった表情が印象的でした。

自分の症状についてはきちんと記録を残すことの重要性、そして〈薬の専門家〉である薬剤師がもっと介入できる仕組みを作るのが大事だという思いを強く持ちました。

現在、世界中の人々の関心は、イラン情勢の悪化による「エネルギー非常事態」だと思います。ワクチン被害者の方々は、長期間の健康被害に苦しんでいるため、原油が高騰して困る云々よりも自身の健康状態を思うだけで精一杯です。



この原稿をかいている（3/25）、YAHOOニュースで「「はしか」感染者数が去年の4倍超。海外からウイルスがもちこまれ国内で感染か？ 空気感染で広がり、感染力が非常に強く発熱・発疹などの症状がでる云々、厚労省はワクチン接種など注意を呼びかけている」と出ていました。健康意識の高い方々は、感染したくないから打たなくては！と考えることでしょう。政府が推奨しているのですから、迷いもせずに……。



薬害関連のHAP講座は今後も続きます。次回は、4月14日を予定しております。

